

1

動物園・水族館のアニマルウェルフェア

ポイント アニマルウェルフェアの基本的な考え方をとらえよう

Q. どうしてアニマルウェルフェアは大切なのか？

動物園・水族館には、保全・教育・研究・レクリエーションの4つの役割があります。役割を果たすために動物園・水族館は動物たちが健康で快適に過ごせるように、飼育環境を整える責任があります。

保全

教育

研究

レクリエーション

アニマルウェルフェア



Q. アニマルウェルフェア（動物福祉）ってなんだろう？

A. 動物の身体的及び心理的状态のこと

アニマルウェルフェアの評価は大きく分けて、インプットとアウトプットに分けられます。動物の環境やケア、プログラムのあり方など（インプット）を考えると、それがわたしたちにできることです。しかし、それにどう反応するか（アウトプット）は動物次第です。両側面からの評価が大切ですが、アウトプットはアニマルウェルフェアそのものです。動物園・水族館の役割を果たしながらも、アニマルウェルフェアに配慮していくことは簡単なことではありません。それぞれの場所で、できる形を摸索する必要があります。

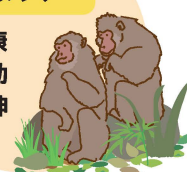
インプット 人がおこなうケア

- ・食べ物
- ・暮らす環境
- ・人との関係など



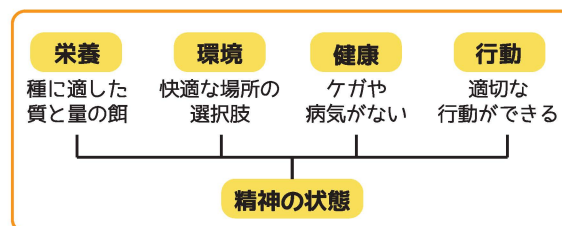
アウトプット 動物のようす

- ・健康
- ・行動
- ・精神



「5つの領域モデル」

動物園・水族館のアニマルウェルフェアを考えるうえで、5つの領域モデルが土台となっています。



アニマルウェルフェアは世界的な潮流

世界でもアニマルウェルフェアへの配慮が行われています。動物のことを思う気持ちは、世界共通です。科学的根拠に基づいたアニマルウェルフェアという共通の言葉で、みんなでアニマルウェルフェアの向上を目指して、考えています。



動物たちも人間と同じように、痛みを感じたり、こわいと思ったり

楽しいと感じたりする感情をもっています。

種を超えた共通点があれば、違いもあります。

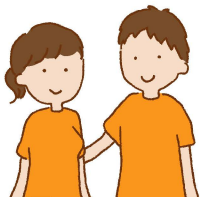
ただ食べ物があって、衛生条件がよいだけでは十分ではありません。

どんな動物なのか本来の性質を考えて、

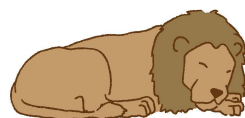
動物に適した刺激のある環境を整えます。



嬉しい



痛い

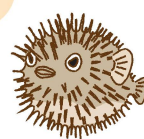


安心



怒り

不安



こわい



2

いろいろなエンリッチメントと評価

ポイント 動物本来の性質を考えて、環境を工夫しよう！

エンリッチメントとは：アニマルウェルフェア向上のための具体的な取組のひとつです。動物の生物学的知見やライフヒストリーに基づいて、動物の環境や管理方法に工夫を行います。環境に選択肢を増やして、動物本来の性質が発揮できるようにします。エンリッチメントと略して使われますが、環境エンリッチメントが正式な名前です。

屠体（とたい）給餌

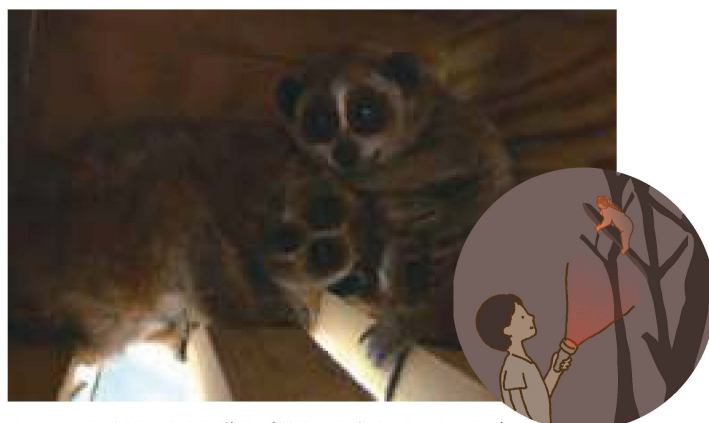
日本ではシカやイノシシが増えすぎて駆除されることがあります。せっかくの命を無駄にせず、動物園の肉食動物のエサとして活用する取組です。切り分けた肉ではすぐ食べ終わってしまいますが、骨や毛皮がついたままの屠体を与えると、時間をかけて食べたり、かじったり、引っ張ったりと、獲物を捕まえて食べる本来の行動を引き出すことができました。



屠体を食べている様子

仲間と関わる

スローロリスは夜に活動する小さな動物です。昔は単独性だと思われていたスローロリスですが、野生でも仲間と関わって生活していることがわかってきました。密輸摘発されたスローロリスが動物園で仲間と暮らすことで、どうなるか調べてみました。レッサースローロリスは、仲間がいれば積極的に関わることがわかりました。仲良くなれば、ストレスの低減など動物福祉の向上につながることもわかりました。

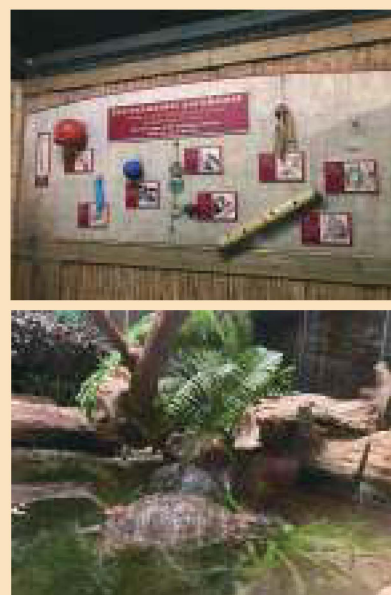


お互いに毛づくろいをする様子（提供：日本モンキーセンター）

海外のエンリッチメント

エンリッチメントは大きな哺乳類から、爬虫類や魚類など小さな生き物まで実践されています。人間にとって見た目がきれい・心地よいかということではなく、動物がどのように反応するのが大切です。必要な要素は種や個体によって異なるので、それぞれの特性をもとにエンリッチメントは考えられています。それぞれの施設でオリジナリティのあるものが行われる一方、日本と世界で共通して行われるものもたくさんあります。日々新しい知見が生み出されています。

- ①イギリス・ペイントン動物園での様々なエンリッチメントの展示
- ②同じヌマガメ科の水棲カメでも種によって、床材の好みに違いがあります (O' Brien et al., 2024 Zoo Biology)



3

飼育担当者に聞いてみたアニマルウェルフェア

ポイント 実際どんなことが行われているのか知ってみよう

エンリッチメント

ゾウは野生では多くの時間を食べ物探索などに費やしています。常同行動が発現しているゾウに遊具としてタイヤを与えたところ、1週間の行動調査では、展示時間中の常同行動が45%から24%に減少しました。さらに、土面にサウキビを隠して給餌すると、掘る行動など行動レパトリーが増加しました。※常同行動とは…同じ場所を歩いたり、体を揺らし続けたりなど同じ行動を繰り返す行動。刺激の少ない環境で見られることが多いため、アニマルウェルフェアの観点からはネガティブにとらえられることが多いです。



担当者の声

ゾウは高い知性を持ち、力が強いので、安全に配慮しつつ良い刺激となるエンリッチメントが今後も実施できたらと思います。



爬虫類の飼育環境

多くの爬虫類は体温や代謝の調節を気温や湿度に依存しているため、飼育環境が個体のウェルフェアに直結します。日光浴スポットと日陰、乾いた区画と湿った区画、運動する構造と隠れ家など、種の生態に合わせて様々な環境が必要です。ゾウガメが体を持ち上げて筋トレできるようにフィーダーを吊るしたり、トカゲの日光浴スポットと日陰を兼ねる擬岩を作ったり、色々な工夫をしています。



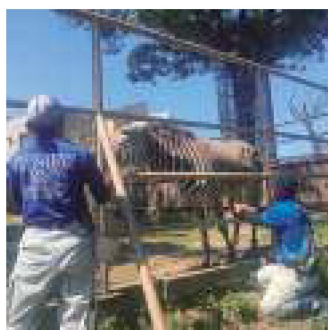
担当者の声

運動量が乏しい爬虫類は、こちらの工夫への反応が薄いことや、隠れて見えなくなってしまうことが難しさであり面白さ。彼らの本来の行動と魅力を引き出せるよう、試行錯誤を楽しんでいます。



ハズバンダリートレーニング

ハズバンダリートレーニングを始めたころは、どんなことにもびっくりしていた個体なのですが、少しずつ触れる範囲や時間を伸ばしていき、動物に少しずつ慣れてもらうようにしました。初めてトレーニングを行ってから8年以上経過した今では、蹄の確認（触診）、体温測定、血圧測定や血液検査のための採血まで可能となりました。



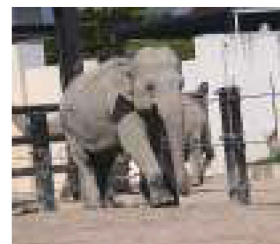
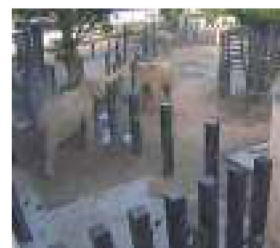
担当者の声

ハズバンダリートレーニングを取り入れることで、動物と人が安全に、そして、お互いに負担が少ない方法で健康管理ができるようになります。少しずつ、無理なく、トレーニングを重ねることが大切です。



個体に合わせて

京都市動物園では2020年から夏はゾウが夜間も屋外グラウンドを使えるように取組を開始しました。野生では夜間も活動するゾウなので、全員が外を利用するかと思いきや、5頭のゾウのうち、最年長のミトは、ほとんど外に出ませんでした。その後も、2021年～2024年は夜間のグラウンド開放を実施するものの、ミトは出ず。昼間は使っている場所でも、ミトにとっては違うようです。しかし、2025年になってようやく夜も屋外に出るようになりました。



担当者の声

新しいことや物にとっても敏感に反応するミトですが、最近始めたターゲットトレーニングを覚えたり、長い間前肢までしか出られなかったサブグラウンドに急に全身出るようになったり、高齢に差し掛かった今でもできることがどんどん増えています。想像を超える行動や成長をするゾウたちにはいつも驚かされます。



ハズバンダリートレーニング

ハズバンダリートレーニングを行うことで、血液・便・尿・胃液の採取や体重測定、X線撮影、エコー検査などが保定せずに可能となり、病気の早期発見や給餌量の調整、環境の改善などの飼育管理に役立ちます。さらに、傷の治療や注射なども行うことができます。

※ハズバンダリートレーニングとは、動物のための心身の健康管理のために行うトレーニングのことです。

担当者の声

水族館でのトレーニングというと、パフォーマンスでジャンプをしている姿を思い浮かべるかもしれませんが、健康管理にも大きな役割を果たしています。毎日のトレーニングを通じて動物とコミュニケーションを取り、信頼関係を深めることを大切にしています。



福山市立動物園：萩原さん / 京都市動物園：折戸さん
広島市安佐動物公園：安西さん / 名古屋港水族館：加古さん
日田市がみね動物園：川瀬さん

4

アニマルウェルフェアを支えるためにできること

ポイント 動物たちのためにできることを考えてみよう

動物園・水族館の楽しみ方を考える



頑張る動物園・水族館を増やします！

公益社団法人日本動物園水族館協会 (JAZA) は、2023 年からアニマルウェルフェアの相互評価システムを立ち上げました。JAZA 加盟園館の職員が評価員となり、協会で定めた基準をもとに、所属園館以外の施設の評価を行います。時に厳しい評価をすることもあります。動物園・水族館のアニマルウェルフェアを第三者の視点で評価して、お互いに高めあうための制度です。



京都市動物園の評価をする評価員

リソースリスト



SHAPE-Japan



動物の行動と管理学会



Wild Welfare
(英語)



市民 ZOO ネットワーク



スターリング大学
アニマルウェルフェア
評価ツール (英語)



米国獣医学会
動物の安楽死指針
(英語)

作成：山梨裕美・工藤宏美（京都市動物園）、安西航・加古智哉・
柏木伸幸・川瀬啓祐・萩原慎太郎・伴和幸（公益社団法人日本
動物園水族館協会・調査研究委員会アニマルウェルフェア研究
部）、一方井祐子（金沢大学）、大谷祐紀（北海道大学）、林美里（中
部学院大学）デザイン：sirokumao トヨタ財団 2023 年度研究
助成プログラム「動物園でかたちづくる人と動物の共生の形：
動物福祉の評価と実践」（D23-R-0028、代表者：山梨裕美）
の助成を受けて、本リーフレットを作成しました。

2025 年 9 月発行



日本動物園水族館協会
JAPANESE ASSOCIATION OF ZOOS AND AQUARIUMS

